

2026年3月31日

1928 ビルの百年  
代表者 清山陽平

## 公益社団法人日本都市計画学会関西支部「都市計画研究会」研究支援 2025 年度報告

日本都市計画学会関西支部「都市計画研究会」研究支援「1928 ビルの百年」の 2025 年度の活動として、以下を実施した。

1. 1928 ビルの実測調査 3 件（2 階共用部、2 階ギャラリー、3 階ホール、搭屋）
2. 1928 ビルに関するインタビュー調査 7 件
3. 現毎日新聞社京都支局での古写真資料の収集（継続中）
4. 研究成果・過程の発信としての体験型作品の制作と展示会の実施(2025/11/3-16)
5. 「京都モダン建築祭」特別イベントとしての成果発表（2025/11/9）

以下、活動報告の一部として活動 4.に関する作成資料や展示風景の写真を記載する。

### ● 展覧会フライヤー



1928 ビルの百年 第二回

#### 100 年の走査

成原陽調 清山陽平

あと3年経つと、1928ビルは竣工から100年を過ぎる。このビルが過ごしてきた「100年」という時間に身を寄せようとしても、その隔たりはあまりに大きく、想像は遠く及ばない。ただ、実測を通して触れてきた目の前のコンクリートの躯体や竣工当初の床材は、そこに在り続けてきた事実を私たちに投げかける。隔たりを認識しつつ、どうすれば手を差し伸べられるのか。

—写真電送は走査によって画像を電気信号に変換し伝送する通信方法である。当時の走査はざらにしかできなかったが、それでも人類が初めて、千里の写真を遠く隔たる人と同時に見る体験だった。私たちは1928ビルの100年を走査する。光が触れることなく表面を立てるように、その像を立ち上げる。はじまりはかつて毎日新聞社支局長室だった小部屋から。100年に比べればあまりに儚かな。しかし儚かなも通算。

2025年11月3日 - 16日 12:00-19:00 (最終日は17:00)  
(10日休館)

add : 京都府京都市中京区三條通御幸町東入舟渡石町56 1928ビル2F  
tel : 075-256-6155

web : www.dshjstai.com/

協成 : 京都大学 人と社会の未来研究院

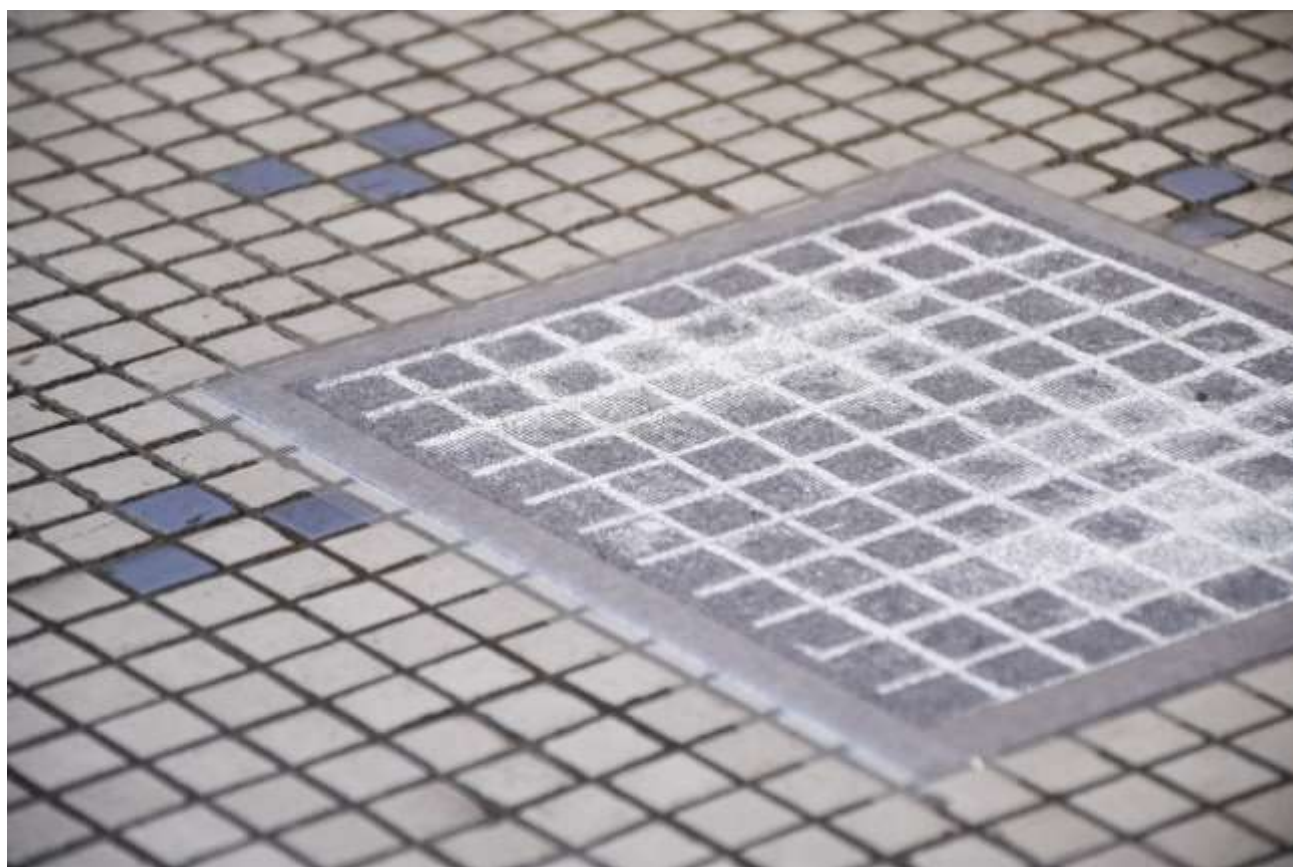
日本都市計画学会 関西支部

日本建築学会 近畿支部

09192864d\_100

同時代ギャラリー  
collage plus

- 展示風景 (撮影 : Rain Takahashi)



- 展示風景 (撮影 : Rain Takahashi)



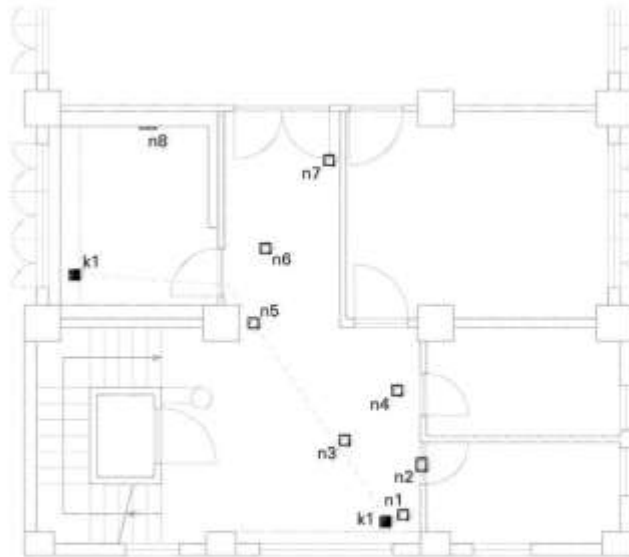
● 展示キャプション

成原 隆訓  
「養生」

Takanori Narihara  
"veil"

n1-n7  
(time stamp 1-7)  
time stamp 1-7  
2025  
フェルトにインク、  
養生テープ  
Ink on Felt, Reinforced  
Strapping Tape

n8  
(wipe  
—unreachable surface)  
wipe —unreachable surface  
2025  
シングルチャンネル・  
ビデオ  
Single-channel video  
7分56秒 | 7'56"



清山 陽平  
「計測\_1928ビル」

Yohei Kiyoyama  
"Measure  
\_1928Building"

k1  
(計測\_1928ビル)  
Measure\_1928Building  
2025  
サウンドインストー  
レション  
Sound installation

100年の走査  
floor map 1/100

## 100年の走査 Scanning 100 years

1928ビルの百年 第二回

2025年11月3日(月・祝)～11月16日(日)

同時代ギャラリー collage plus

助成：  
京都大学 人と社会の未来研究院  
日本都市計画学会関西支部  
日本建築学会近畿支部

1928ビルの百年  
2028年、1928ビルは創建100  
年を迎えます。本プロジェ  
クトはこれまでの歩みを振り返  
り、未来の100年を見据える  
取り組みです。  
Instagram  
@1928bld\_100



成原 隆訓 「養生」

ギャラリーでのトークに参加し二時間はど座り通していると、床を見つめる時間があった。床の木材が昔からある古いものと補修されたもの、塗り込められた部分など、様々な時間を蓄えてきたことに気づく。一方壁は白く塗られ手直しの跡を見ることはできない。ビルが過ごしてきた時間をうかがい知れるのは皆が気にもとめない床なのだ。

私は100年前の姿をかろうじて残すこの廣間（ホール）の床に目を留め、時を刻んだ傷跡につかの間の保護を施しその時を止める。養生のフェルトには真下にある傷跡が刷られ、それらを直接見ることはできない。印刷されたインクの有無の境界に位置付けられた傷は、100年という長い時間を二分し私たちをその時へと誘う。会場の後でここを再び訪れた時、もう少し近くにその時を感じ取れば、と望む。

Takanori Narihara "Veil"

During a talk in the gallery, my eyes rested on the floor — its old and repaired boards quietly carrying time. In the hall where the original flooring remains, I laid felt to still the surface for a moment — to acknowledge the wounds that are always in motion.

清山 陽平 「計測\_1928ビル」

1分前、入口の床を踏んだあなたの足、扉を引いた手、発した声はこのビルをわずかに揺らした。その揺れは小部屋で反射して、ヘッドホンの内にあるあなたの鼓膜を小さく揺らし返す。およそ100年前この土地に打設された何百立方メートルのコンクリートは、ひとつの建物として固まって以来、実はずっと揺られ続けている。空気中よりもずっと速く、遠くまで伝わるコンクリートの揺れは、閉め切られた小部屋のなかで二種類のマイクを通じ電気信号に変わる。60秒間の遅れの後、ケーブルによって5m先の窓辺へ届けられる。あなたとビルがいまこのとき、共なる揺動であるという事実を確認する。

制作協力：柳沢英輔、森理一

Yohei Kiyoyama "Measure\_1928 building"

1 minute ago, your foot stepped on the floor and this building oscillated slightly. Inside the small locked exhibition room, oscillations are converted into electrical signals via microphones. After a 60-second delay, they are transmitted via cable to the window. Acknowledging the fact that you and this building are now, at this very moment, a shared oscillation.